

住宅防火アドバイス

火災から命や財産を守るためにできること



＼ よこはま防災e-パーク /

火災・地震・風水害への備えや、救急に関する知識を動画やクイズ等でわかりやすく学べるウェブサイトです。「よこはま防災e-パーク」で検索 または右の二次元コードからアクセスできます。

よこはま防災e-パーク

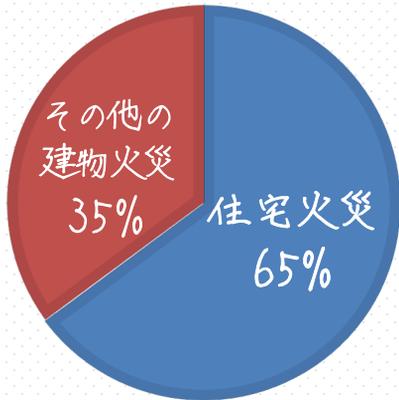


二次元コード



住宅火災の実態

全建物火災のうち住宅火災が占める割合(令和5年)



建物火災の半数以上は**住宅**で発生しています。

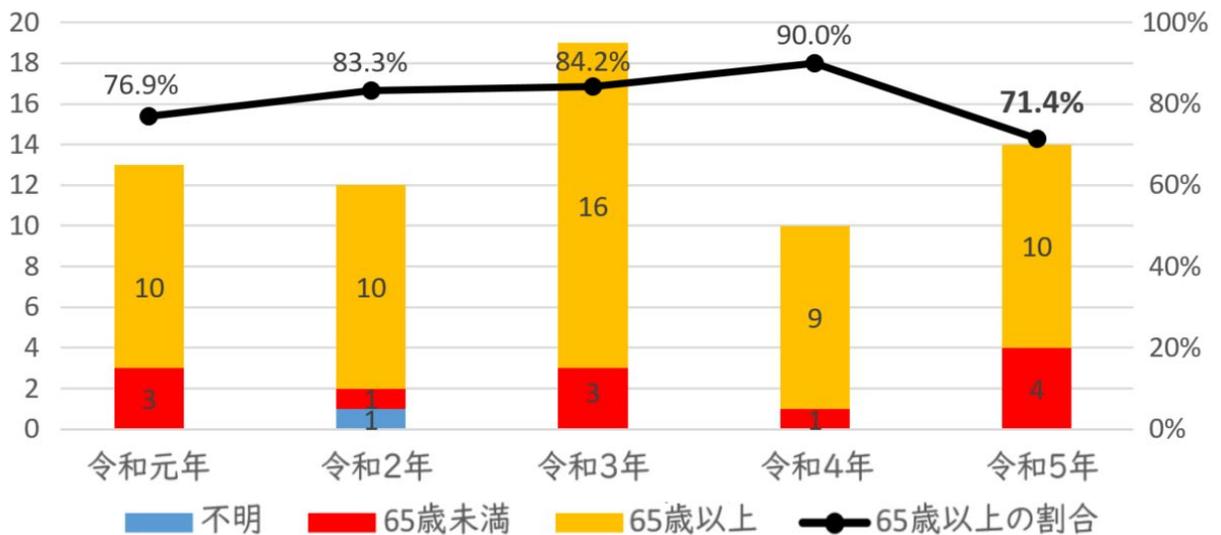
住宅火災の出火原因
ワースト3(令和5年)



※壁付コンセントやテーブルタップ等

住宅火災でお亡くなりになる方のほとんどが**65歳以上の高齢者**

住宅火災による死者(放火自殺を除く)の内訳



こんろや家電製品など身近なものから火災は発生しています。日頃から気を付けるべきポイントや対策を学び、住宅火災の被害を減らしましょう!

こんろ火災対策



動画を見る →



令和5年度に市内で発生した住宅火災285件のうち、こんろが原因となった火災は58件発生しています。

ポイント① 火をついたら絶対にその場を離れない

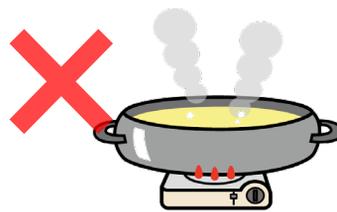
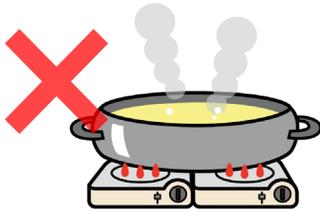
食用油は、約370℃になると自然発火します。
(油の量や火の強さにより、発火までの時間は変わります。)



食用油から出火した時は、爆発するおそれがありますので、絶対に水をかけないでください。
炎が小さい場合は、消火器または蓋や濡れたタオルをかぶせるなどにより、消火しましょう。

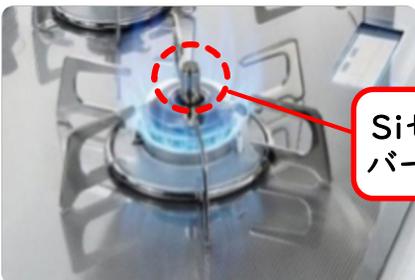
ポイント② カセットコンロを正しく使う

カセットコンロに適合したボンベを使用し、正しく装着しましょう。
2台以上を並べて使用したり、こんろを覆うような大きな調理器具を使用すると、ボンベが過熱され爆発するおそれがあります。



ポイント③ Siセンサーコンロを使用する

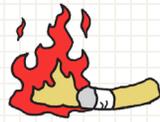
複数あるこんろのうち、1つだけにSiセンサー設置されている場合は、Siセンサー付きのこんろを優先的に使用しましょう。



Siセンサー付きバーナー

Siセンサーコンロとは、一定時間の経過や一定温度に達すると自動消火するなどの安全機能を搭載したこんろです。

たばこ火災対策



動画を見る →



たばこ火災のほとんどは、喫煙者の不注意や吸殻の不始末などが原因です。次の3つのポイントを必ず守りましょう。

ポイント ① 必ず灰皿を使用する

空き缶やペットボトル、カップ麺などの容器を灰皿の代わりに使用することは危険です。絶対にやめましょう。



ポイント ② 灰皿には水を入れ、吸殻をためない

たばこの火はとても小さく、消したと思ってもくすぶった状態で燃え続けている場合があります。

灰皿には水を入れ、吸殻を捨てる時は、確実に火が消えていることを確認してから捨てましょう。



ポイント ③ 寝たばこは絶対にしない、させない

たばこの火種が布団などの可燃物に落下すると大変危険です。近くに燃えやすいものがない安全な場所で喫煙しましょう。

たばこの火は「無炎燃焼」といい、炎を伴わず、長時間にわたっていぶすように燃え続ける特徴があります。

燃えていることに気が付きにくく、密閉された空間では、一酸化炭素中毒となり、逃げ遅れにつながるおそれがあります。



電気火災対策



動画を見る →



横浜市内の火災件数は減少傾向ですが、電気火災の占める割合は増加傾向です。

ポイント① 小型充電式電池を適切に使用する

小型充電式電池（モバイルバッテリー等）に衝撃を加えたり、車内など高温になる場所に放置すると発火するおそれがあります。

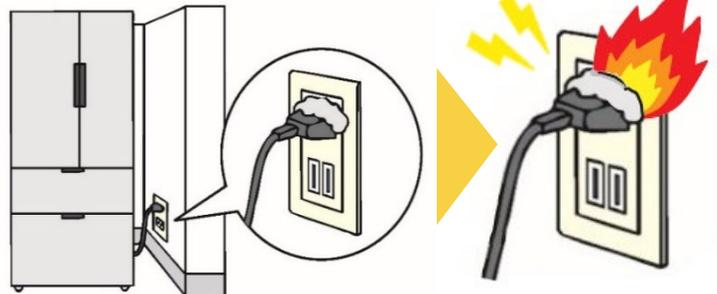


横浜市では、小型充電式電池をごみ集積場に出すことはできません！
不要になった場合は、区役所や家電量販店等に設置されている専用の回収缶に入れましょう。

ポイント② コンセントプラグの水分に要注意

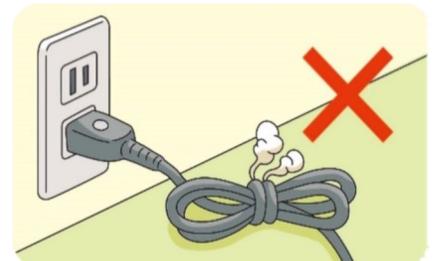
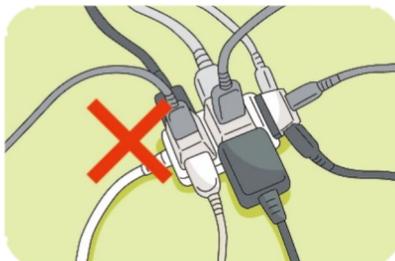
プラグ部分に溜まった“ほこり”が湿気などの水分を吸収することで、火災につながるおそれがあります。

濡れ雑巾や除菌スプレーなどは使用せず、乾いた布で定期的に掃除をしましょう。



ポイント③ 電気コードを適切に取扱う

たこ足配線や、家具の下敷き、束ねたままの状態で使用し続けると内部が断線し、火災につながるおそれがあります。



放火対策



動画を見る →



放火は、夕方から深夜にかけて多く発生しています。

ポイント① 家の周りに燃えやすいものを置かない

ごみは決められた日時・場所に出し、死角となる場所にはできるだけ物を置かないようにしましょう。



ポイント② 車庫や物置には鍵をかける

放火犯は人目につきにくい場所で放火するケースが多いです。車庫などには鍵をかけ、外部からの侵入を防ぎましょう。



ストーブ火災対策



動画を見る →



ストーブ火災は、出火すると被害が大きくなりやすく、ほかの火災原因と比べて死者発生率の割合が高いです。

ポイント① ストーブの近くに燃えやすいものを置かない

洗濯物などをストーブの近くに干していると、なにかの拍子で接触し、火災につながるおそれがあります。また、ストーブの近くでは、絶対にスプレー缶を使用しないでください。



ポイント② 就寝時には必ず電源を切る

寝返りを打った時などに、布団が接触し火災につながるおそれがあります。特に、就寝中は火災に気づくのが遅れ、被害が大きくなる可能性が高いです。



着衣着火に注意!

動画を見る →



調理中のガスコンロや仏壇のろうそくの火などが着ている服につき、燃え上がる現象を「**着衣着火**」と言います。

コンロの奥には物を置かないようにし、火を使う際は、**裾や袖が広がった服は避けましょう。**

また、防災処理されたエプロンやアームカバーを使うとより安全です。



住宅火災警報器



動画を見る →



設置編



点検・交換編

火災で亡くなる方のほとんどは、**逃げ遅れ**が原因です。火災の**早期発見**と**早期避難**のために住宅用火災警報器を設置しましょう。

設置場所

※ 消防法及び横浜市火災予防条例により、下記の場所には設置が義務付けられています。



台所



寝室



階段
(寝室が2階以上の場合)

定期的な点検と10年を目安に交換

古くなった警報器は、電池の消耗や内部の部品の劣化により、適切に作動しくなくなります。本体は**10年を目安に交換**しましょう。

〈点検方法〉

- ① テストボタンを押す または 引きひもを引く
- ② 警報音(ブザーや音声)を確認

※ 警報音が鳴らない場合、電池切れや故障の可能性が有ります。



○ご自身での点検・交換が困難な場合は、お近くの消防署までご相談ください。

＼スマホで簡単!／

住宅防災診断でおうちの状況をチェック!



消火器の使い方

動画を見る →



万が一、火災が発生してしまった場合でも、炎が小さいうちに消火できるよう、地域の防災訓練などで使用方法を確認しておきましょう！

ただし、炎が天井に達するほど大きい場合は、消火をあきらめ避難を優先してください。

安全な避難

火災時に最も危険なものは、**煙**です。

避難する際は、煙を吸わないよう

タオルなどで鼻と口を押さえ、
姿勢を低くして避難しましょう！

また、避難経路は**2方向以上**確保しておきましょう！



119番通報のポイント



119番通報で最も重要な情報は、**要請場所**です。

住所がわからない場合は、目の前にある信号機やバス停、電柱、一般住宅の住所表示などを伝えてください。また、指令員が必要な情報を順番にお聞きしますので、慌てず、落ち着いて質問に答えましょう。

横浜市民防災センター



2種類の体験ツアー（地震・火災体験ツアー、風水害体験ツアー）と、6種類の体験プログラムで、分かりやすく、そして、楽しく防災・減災について学ぶことができます。

HPはこちら▼

お問合せ：045-411-0119

住所：横浜市神奈川区沢渡4-7

開館時間：9時15分から17時00分まで

休館日：月曜日（祝日の場合開館、次の平日が休館）、年末年始

